

(3) シート等を活用した自立活動の指導の進め方（実態把握から具体的な指導内容の設定まで）の事例

令和元年度の研究で作成したシート等を活用した事例を紹介します。実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れについて、小学校及び中学校の2事例を作成しました。

事例では、本研究で考える自立活動の指導の進め方の各段階で、シート等をどのように使用したかを示しました。

本研究で考える自立活動の指導の進め方と各段階で使用したシート等（表1）と事例の概要は以下の通りです。

表1 本研究で考える自立活動の指導の進め方と各段階で使用したシート等

本研究で考える自立活動の指導の進め方		シート等
ア 実態把握	① : 自立活動の指導を行うために必要な情報を収集する段階	情報収集シート
	②-1 : 収集した情報を自立活動の六つの区分に整理する段階	情報整理シート
	②-2 : 収集した情報を学習上又は生活上の困難の視点で整理する段階	情報収集シート
	②-3 : 収集した情報を将来の姿の観点から整理する段階	
イ 課題の整理	③ : 整理した情報の中から、課題となることを抽出する段階	課題抽出～ 指導目標シート
	④ : 抽出した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階	
ウ	⑤ : 中心的な課題を踏まえた指導目標を設定する段階	
エ	⑥ : 指導目標を達成するために必要な項目を自立活動の区分から選定する段階	
	⑦ : 指導すべき項目同士を関連付ける段階	
オ	⑧ : 具体的な指導内容を設定する段階	

《事例の概要》

をクリックすると、各事例を見ることができます。

【事例1】小学校自閉症・情緒障害特別支援学級（3年児童） 

自分の思いや考えを伝えることに困難が見られる児童が、他者と関わり、安心して学校生活を送ることができるように、適切なコミュニケーション手段を身に付けるための具体的な指導内容を設定するまでの事例です。

【事例2】中学校自閉症・情緒障害特別支援学級（2年生徒） 

集中して学習に取り組むことが難しく、集団での活動が苦手な生徒が、代替手段（自分に合った学習への取り組み方や集団への関わり方）を活用しながら、主体的に学習に取り組んだり、集団活動に適切に参加したりすることができるように、「人間関係の形成」「環境の把握」等の区分や項目の具体的な指導内容を設定するまでの事例です。